

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	衣料品専門店（経営者）	・2月は1年のうちでも商品の売行きは一番悪いが、今年は天候不順や早期セール展開による2月の落ち込みをある程度予想していた。今後、景気がこれ以上悪くなることはない。新店の計画もあるので、2～3か月先は良くなる。
		高級レストラン（専務）	・九州新幹線開業という新しい大きなイベントが控えており、交流人口が大幅に増える。ただ、それに関連する業界については景気が良くなるだろうが、それも長くは続かない。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・再開発、新規出店等が目白押しであり、個人消費は良く動く。
		百貨店（営業担当）	・春先に向けて、新店オープンなど一時的な効果が期待される。また、顧客回遊ルートの変化で、来客数の増加を予想している。
		百貨店（販売促進担当）	・九州新幹線部分開業、新店舗開店を契機に、福岡天神の吸引力は更に上がる。しかし、天神百貨店の売上が上がる一方、他県の小売業（百貨店）の売上が落ちる。
		スーパー（店長）	・客のセールへの反応が良くなっている。全体的な雰囲気も少し以前の厳しさから緩んでいる。
		コンビニ（販売促進担当）	・九州新幹線の開通に伴い、鹿児島中央駅前及び鹿児島-八代間の観光客の取り込みに力を入れている。波及効果である程度鹿児島島の経済も良くなる。
		衣料品専門店（総務担当）	・婦人服では、春物との入替えがスムーズで、春物商品が徐々に動き出している。客の反応も良い。
		家電量販店（企画担当）	・今年はアテネオリンピックがあるため、良くなるという感触を持っている。また、ワールドシリーズも始まるので関連需要に期待が持たれる。
		乗用車販売店（従業員）	・トラックの販売台数が増えつつある。景気は上向く。
		乗用車販売店（経理担当）	・今年の5、6月に新型車が出るので、若干ではあるが販売数の伸びが期待できる。
		乗用車販売店（管理担当）	・下取車のスクラップの価格が以前より上昇している。中古車はやや品薄になっており、株価の上昇等も含めて経済にややうねりが出てきた。
		旅行代理店（従業員）	・国内旅行は順調に推移すると思われるが、海外旅行は先が見えない状態。何事もなければ今後受注は期待できる。
		テーマパーク（職員）	・3～5月の春、ステイプランを打ち出す。ゴールデンウィークを挟む期間であるため、ゴルフや観光施設のにぎわいも期待できる。
		競輪場（職員）	・5月よりナイター競艇を実施する。PR効果等を含めファンサービスに力を入れているので、徐々に売上げが増える。
	設計事務所（所長）	・自治体の予算発表によると、そこそこの予算が組んであるため、やや景気は上向く。	
	変わらない	商店街（代表者）	・給料のアップがみられない現状では、客はその分消費を控えるようになる。必需品はともかく、書籍類などは特に売上が落ちる。
		商店街（代表者）	・暖かくなれば人の動きは多少期待できるが、一方で来月初旬には郊外の大型ディスカウントストアのオープンも控えているので、あまり購買としては期待できない。
		百貨店（売場主任）	・競合店のオープンで商圈が拡大すると思われたが、買い回りは少ない。オープン記念のセール品には人が殺到していたが、プロパー商品の動きは今一つで、今後も景気が良くなるとは思えない。
		百貨店（営業担当）	・イベントの来客は非常に多いが、平常の売上が悪くなっている。粗品付きの催事には敏感に反応しているが、通常の夕方の方の来店が減っている。
百貨店（営業担当）		・商戦は新規商品投入の効果もあり、昨年をクリアしたものの、紳士服部門の売上が昨年に比べ90%と低迷した。	
百貨店（売場担当）		・3月の頭に、近郊に24時間営業のスーパーマーケットがオープンするため、競争が激化し、厳しい状況になる。	
百貨店（業務担当）		・生活者の潜在的ニーズを発掘する商材が出てこないことには、消費の活況はみえてこない。	
スーパー（経営者）		・鳥肉、牛肉の輸入制限に加え、競合店、大型店の出店等、不安要素がたくさんある。	

	スーパー（店長）	・単価は上昇傾向であるが、客数があまり伸びていない。今月は申年にちなんで赤い肌着と普通の肌着がプロパー価格で相当売れ、今月の売上を支えた。反面春物の動きがあまりなく、新しいトレンドへの反応が以前に比べて鈍い。この傾向は今後も続く。	
	スーパー（店長）	・生活の先行き不安で、買物をする時に、品物を真剣にセレクトする傾向は今後も続く。	
	スーパー（総務担当）	・昨年比を下回って推移している。特に衣料品、住居用品は昨年を下回った。今後も衣料品、住居用品の復調の兆しが見えない。	
	コンビニ（経営者）	・競合店の進出により競争が一層激化する。近くに他チェーンの開店が見込まれており、近くのスーパー等も営業時間延長、24時間営業を始めている。	
	コンビニ（エリア担当）	・全体的な販売量の推移は低調であり、これから先、極端に伸びる傾向は見えない。店舗の運営状況も関係あるが売上鈍化はまだ続く。	
	コンビニ（エリア担当）	・今後も酒類免許新規取得店舗は予定されているが、酒類を飲む人口は変わらないにもかかわらず、販売店は増加になるため、売上増は見込めない。	
	衣料品専門店（経営者）	・客に合う服が少なかった。今後仕入を見直すことで来店数を増やしたい。価格よりファッション性の高いものに要望が出てきている。	
	衣料品専門店（店長）	・客が自分の収入に合わせた動きをしている。世間の状況も同じで収入が増える要素がないので財布のひもは相変わらず固い。	
	乗用車販売店（経営者）	・ローンを組む客が非常に少なくなり、現金での購入が増えている。現金を持ってはいるが、景気の先行きが不安で物を買わない。2、3か月先も景気が良くならない。	
	乗用車販売店（販売担当）	・販売量は若干増加するが、単価の動きは変わらない。維持費の安い軽自動車に流れており、景気は良くなる方向に向かっていない。	
	住関連専門店（経営者）	・1、2月の売上が今までで最低で、家具売りの需要は現状維持が当分困難である。耐久消費財の購入に対する意欲が出てきていない。	
	旅行代理店（業務担当）	・海外を中心に日並びが良いゴールデンウィークの申込は昨年を上回っているが、それ以外の期間の申込が少ない。	
	タクシー運転手	・日曜、祭日でも人があまりなく、出てきても公共機関で早めに家路に急ぐようである。	
	通信会社（営業担当）	・各メーカーの次世代携帯電話の新機種が出そうだが、人気のメーカーの機種は既に発売されているため、今月ほど話題にはならないと予想される。しかし、人気のメーカーの機種の購入を希望している客はまだ多く、売上はある程度見込まれる。	
	観光名所（職員）	・ゴルフ場の価格は下げ止まった。しかし、利用客が自然に増えるという要素はない。観光施設についても同じであり、良くなるにはもう少し時間がかかる。	
	住宅販売会社（従業員）	・持家住宅の取得に関して、客の踏ん切りがまだつかない。今後も厳しい。	
	やや悪くなる	百貨店（営業企画担当）	・大型量販店が出店し、福岡一極集中の拡大傾向は続いている。さらに、鳥栖市にアウトレットモールがオープンするため、客数の減少傾向は続く。
		スーパー（店長）	・BSE、鳥インフルエンザの問題で肉の売上がかなり落ちており、この状況は今後も続く。総額表示の問題も含め、今より難しい状況となる。春物衣料も動きがないので、夏の品ぞろえで勝負するしかない。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・福岡市天神地区、北九州市に新しい百貨店がオープンし、博多駅前にはショッピングゾーンとしての魅力に欠けているため、景気はやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・客がどんどん安い単価を求めようになり、市販のもので済ませるようになってきている。
	悪くなる		
企業動向関連	良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体は3か月先まで仕事が見えている。
	やや良くなる	家具製造業（従業員）	・物件の量は上向いており、一時の不景気感はかなり改善されている。受注単価の下落が逆に物件を造りだしている向きもある。ただ、このままユーロ高が続くと輸入環境が厳しくなり、値上げを検討せざるを得ない。
		輸送業（従業員）	・同業者の取扱量や荷主の出荷状況が回復している。

		経営コンサルタント	・それぞれの酒屋が酒の品ぞろえを強化し始めており、それに伴って売上がかなり見込まれる。品不足も生じているくらいなので、酒屋については若干景気が上向く。
変わらない		農林水産業（経営者）	・本来なら3、4月は春先の行楽シーズンであるため期待が持てるが、現状では見通しは暗い。鳥インフルエンザの影響は2、3か月は続く。
		食料品製造業（経営者）	・当社にとっては、九州新幹線の開業効果はそれほどないと考えられる。これ以外に好材料が見当たらないため、景気的好転は期待できない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・食器類関係の中小零細企業は、輸入食器に押されあまり大きな動きはない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連、半導体装置関連は、現在の活発な動きが今後も続くか、もしくは上向くことが予想される。
		精密機械器具製造業（経営者）	・現状も受注面では決して減っていない。ただ、受注増は製品の改良によるものであり、良いのか悪いのか少し不安なところもある。
		輸送業（総務担当）	・一部季節商品の変動があるが、ほとんどの得意先の荷動きはない。
		広告代理店（従業員）	・昨年11月から売上高が悪くなり、回復の兆しが無い。業種によっては好調な業種があるが、不動産関連など相変わらず低調な業種もあり、チラシの件数はしばらく横ばい状態が続く。
やや悪くなる		鉄鋼業（経営者）	・中国の旺盛な需要による、原料価格の高騰が続いている。運送費、副資材等も上昇し、コストアップ要因が目白押しで採算が悪化している。
		金属製品製造業（企画担当）	・鉄鋼、ステンレス、銅の原材料値上げ圧力があり、購入費が上昇している。競合会社との価格競争から調達コストの上昇を売価に反映することが難しく、厳しい状況である。
		建設業（総務担当）	・県や市町村の土木、建築に配分される予算が削減された。発注も少なくなり不安である。
悪くなる		繊維工業（営業）	・高級品を作っている企業の倒産等が始まっており、腕がいいから倒産しない、ということはない。海外でもいいものができるという認識ができていく。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・大型船舶の新造船の受注が全くないし、仮に受注したとしても、原材料鋼材の値上がりがかかり響いてくる。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法の改正で追い風である。これまで期間が限られていたものが条件付で延長されたため、契約を延長する人が増えてくると思われる。また製造業への派遣等が解禁されるに当たり、雇用が更に増える。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・福岡では6月中旬に大型商業施設がオープンする予定であり、1,000人を超える雇用が見込まれている。それに伴い、3～5月にかけて求人増加が予想されるほか、周辺企業への影響も考えられる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地場企業の動きは変わらないが、求人の枠数は増えている。
		職業安定所（職員）	・新規就職者数が3か月連続で減少している。新規求人数はやや落ちついた感があるものの、14か月連続で対前年比増加している。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が平成7年以来の0.7倍台を4か月連続で上回っている。
		民間職業紹介機関（支店長）	・輸出に支えられる自動車、電子機器、鉄鋼、内需のけん引役であるデジタル家電の上昇傾向は当分続く。福岡、長崎、大分等、大企業誘致により、地域経済の労働市場にもプラス材料がみられ始めた。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・IT、輸出関係を中心に景気が上向いているがビジネス派遣としての直接関係のない業態については、景気の上向きを示す材料がなかなか見いだせない状況である。	
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・食料品製造業において、工場閉鎖による大量離職者の発生が予想され、求人倍率が低下する恐れがある。	
悪くなる	-	-	-